

## 甲府商工会議所

機関名	甲府商工会議所		
所在地	山梨県甲府市相生2-2-17		
電話番号	055-233-2241		
地域概要	(1)管内人口 193千人	(2)管内商店街数 86商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 2	(2)会員数 48商店	
	(3)空店舗率 4.2%	(4)大型店空き店舗数 0	
	かすが商店街振興組合ほか1商店街		
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成16年度	活性化対策事業	・スポーツ、文化の情報発信拠点 ・交流の場の提供
	総事業費	21,253千円

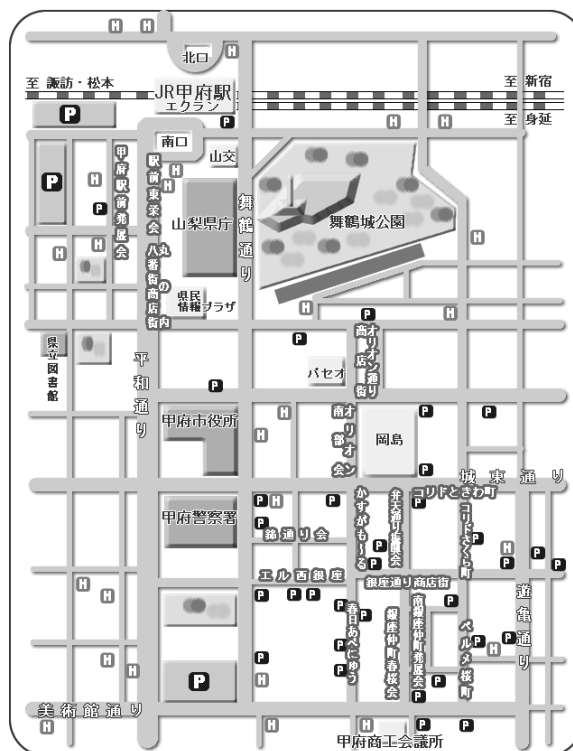
### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

甲府駅前の13商店街からなる中心商店街は、人口流出によるドーナツ化現象と郊外型ショッピングセンターの相次ぐ出店により、集客効果が減少している。

「かすがも〜る」（かすが商店街振興組合）は中心商店街の中でも、核となる百貨店を起点とする、もっとも集客力のある商店街である。しかし平成11年に生鮮食品を扱う大型店のトポス甲府店が撤退したことを契機に来街者が目に見えて減少し、商店街全体に活気がなくなった。中心商店街では甲府駅から離れるほど空き店舗が増加しており、このような厳しい状況のなか中心的存在である「かすがも〜る」の衰退を食い止めることは急務の課題であった。

そこで甲府市、甲府商工会議所、中心商店街で協議会を設け、対応を検討した。大型空き店舗に関しては、郊外型の地元スーパーを誘致することができた。「かすがも



甲府市中心商店街マップ

～る」をはじめとする甲府中心商店街の活性化のため、地域活力の源であるサッカーJ2のヴァンフォーレ甲府と連携し、新たなイベントを創出することとなった。甲府商工会議所では、平成14年度から中小商業活性化事業に着手しており、平成16年度は学生チャレンジショップの開設など新たな事業に取り組むことにより、事業をさらに発展させて継続した。

### 2. 事業内容

サッカーJ2に所属しているヴァンフォーレ甲府は、全国規模のスポンサーがなく財政基盤の弱いチームであるが、県民・市民など多くのサポーターに支えられている「ふるさと球団」である。ヴァンフォーレ甲府は地域の資源であり、ヴァンフォーレ甲府と商店街が連携して商店街の活性化やまちづくりを行なうことにより、従来の主な来街者以外の人々を呼び込むことが可能となる。

また学生チャレンジショップやイルミネーション事業により、学生の顧客や広域からの集客効果が見込める。サポーターや学生、NPOのボランティアを中心とした人々の活動を通し街の賑わい創出を期待して、事業を実施した。



商店街の様子

#### (1) まちなかヴァンフォーレプラザ

中心市街地商店街の1つである「かすがも～る」の空き店舗を利用して、ヴァンフォーレ甲府を応援する交流施設として「まちなかヴァンフォーレプラザ」を運営した。ヴァンフォーレ甲府のサポーターがいつでも立ち寄り、交流の輪を広げられる場を提供した。

所在地：甲府市中央1-6-2 不動ビル1F

##### ①ヴァンフォーレ甲府勝利翌日の商店街サービス

ヴァンフォーレプラザと地元複数商店街の連携により、ヴァンフォーレ甲府が勝利した翌日、来店客へのサービスを実施した。本サービス事業は近隣商店街の47店舗が協賛しており、ヴァンフォーレプラザへの支援と販売促進を目的としている。

##### ②「月刊かすがも～る」の発行

「月刊かすがも～る」を発行し、商店街の個店情報や商店街イベント情報や「ヴ



「まちなかヴァンフォーレプラザ」外観

「ファンフォーレ情報&今月のMVP選手」を毎回掲載している。

③地域通貨「甲府マネーK」の発行

商店街のコミュニティ再生、駐車料金負担の軽減、販売促進を目的に、地域通貨「甲府マネーK」（1K=1円）を発行した。

1)配布方法

- ・ 中心市街地の有料駐車場を利用する際に車1台につき300Kを配布
- ・ 商店街の清掃活動にボランティア参加した際には500Kを配布
- ・ ファンフォーレ甲府がホームゲームを開催時のボランティアスタッフに700Kを配布

2)利用方法

- ・ 甲府中央商店街の62の個店で利用可能
- ・ 利用形態は、「支払金額の10%まで利用可能」「ある特定商品を購入時のみ利用可能」など個店により相違

④ホームページの相互リンクと共同企画

甲府中央商店街では「甲府城下甲斐mono街」というホームページを運営しており、ファンフォーレ甲府のホームページとの相互リンクにより、情報発信の多様化を図っている。また毎月恒例のプレゼント企画を共同で行っている。

⑤ファンフォーレ甲府選手とのサイン会の実施

「ファンフォーレプラザ」のPRと商店街への来街者増加を目的にファンフォーレ甲府の選手による写真撮影・サイン・握手会を7月と11月の2回開催した。

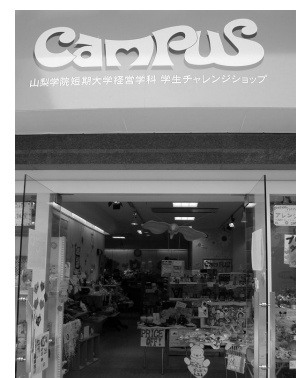


サイン会の様子

(2) 学生コミュニティショップ「CAMPUS」

山梨学院短期大学との協働によるチャレンジショップ「CAMPUS」の企画、運営を行った。空き店舗対策事業を実施するにあたり、大学との連携により学生主導で店舗を設置した。大学生の視点で商店街を活性化させる糸口を見出し、学生が将来商店街で創業するきっかけの1つとなることをねらいとした。

- ・ 期 間 : 平成16年7月25日～平成17年3月31日
- ・ 対象店舗 : 甲府市中央1-6-4 かげつビル1F・2F
- ・ 営業時間 : 午前11時～午後7時
- ・ 業 種 : アジアン雑貨小売  
インターネットコミュニティサロン
- ・ ターゲット : 主婦・学生



「CAMPUS」外観

①店舗ホームページの作成・運営

学生の手で店舗PRのための外部向けホームページを作成し、店舗概要や商店街イベント、報道実績を掲載した。山梨学院短期大学や商店街ホームページともリンクしており、商店街情報の発信にも務めた。

②コミュニティFM局との連携による情報発信

FM甲府との連携により、年10回、「CAMPUS」内にFMサテライト・スペースを設置し、生放送により商店街や「CAMPUS」のリアルな情報発信を行った。

③ワークショップの開催

平成17年3月1日に、かすが商店街振興組合、山梨学院短期大学経営学科学生及び教員、甲府商工会議所、行政（山梨県、甲府市）によるまちづくり懇談会を開催した。当日はかすが商店街（かすがも〜る）に対する若者の評価、商店街活性化策の検討、イベント・アイデアの創出、商店主から「CAMPUS」へのアドバイスといった内容の議論が交わされた。

④学生アーティストを応援する「まちなかギャラリー」の開催

県内出身の学生アーティストを応援する企画として「まちなかギャラリー」を開催した。青森県にて活動中の似顔絵アーティスト（山梨県笛吹市出身）との協働により3月6日から12日の期間、「CAMPUS」店内にて作品展示を行なった。作品展示最終日には無料似顔絵パフォーマンスを行った。

<曜日別来店者数等の状況>

	月	火	水	木	金	土	日
平均来店者数（人）	17.8	25.4	13.8	定休日	17.0	22.0	19.0
平均購買者数（人）	11.5	9.8	10.2		9.3	9.7	10.9
平均買上率	64.9%	38.5%	73.5%		54.7%	44.3%	57.2%

（平成16年11月～平成17年2月）



「CAMPUS」店内の様子

(3) イルミネーション事業の実施

昨年は甲府駅前のみで実施していたイルミネーション事業「ナイトジュエリー甲府」をさらに広げるため、甲府市中心商店街それぞれに呼びかけたところ、8つの商店街が名乗りをあげた。積極的な事業展開により甲府市中心商店街のイメージアップと誘客効果が向上した。

実施にあたっては、顧客の回遊性を高めるため「宝石で街を飾る」ことをテーマに各商店街でモチーフを考えた。また、中心市街地に所在する舞鶴城公園でもイルミネーション事業「光のピュシス」を行い、相乗効果で回遊性が高まった。

①ナイトジュエリーフォトコンテストの実施

事業のPRと県民市民への啓発のため「ナイトジュエリーフォトコンテスト」を実施した。応募点数は69点であり、作品は商店街内の会場に一日展示した。

②専用ホームページの作成

「ナイトジュエリー」や「光のピュシス」を広く県内外に発信するため、専用ホームページを作成し甲府商工会議所ホームページのトップページに掲載した。



ナイトジュエリーの様子



光のピュシスの様子

【 効 果 】

1. まちづくりに対する意識高揚

まちなかヴァンフォーレプラザの設置により、環境型市民団体による商店街での飾花活動や地元大学生と商店街との共同クリーン作戦、子育て支援団体による商店街イベントなど商店街以外の人々が自主的に活動を展開するようになり、まちづくりに対する意識の高揚が図れた。

2. 近隣商店街への波及

まちなかヴァンフォーレプラザが商店街内にあることから、VF甲府が勝利した翌日に来店客へのサービスを実施したところ、サービスが近隣商店街にも波及し、連携して事業展開することができた。当該商店街以外にもその他7商店街の47店から協賛をいただき、複数の商店街による連携が構築できた。

### 3. 大学との連携

山梨学院短期大学の全面協力による学生コミュニティショップ「CAMPUS」が来店し、学生が主体的に運営した結果、学生の来街者が増加した。さらに商店街と学生、教授などによるネットワークが構築され、商店街例会でも学生など若い人との意見交換が積極的に行なわれるようになった。

平成 17 年度は大学の体制として「CAMPUS」の実地研修を単位化しており、大学と商店街の連携がより一層促進されている。

## 【課題・反省点】

### 1. 事業費の確保

地域資源の有効活用と大学との協働により、他地域と差別化した空き店舗対策を実施することができたが、固定費等を賄えるほどの売上を確保する状況には至っていない。

地域と大学との連携や中心市街地活性化の重要性を再認識していかなければ、事業費の確保は困難な状況にある。

### 2. PR

今後コミュニティショップ事業を独自に継続して行なう際、最低限の店舗運営費を確保することが優先となり、宣伝広告のための費用を確保することが難しい。宣伝広告により知名度を向上し、来店客を増やすことで売上向上を目指すというサイクルを実施しにくい状況にある。今後はPR手法を工夫し、来店客増加に取り組む必要がある。

## 【事業の実施ポイント】

- ・補助事業を実施する場合、自主財源の確保が最重要課題となり、市町村を巻き込んだ県・市・実施主体の財源確保と共通認識が重要となる。地域資源や大学、NPO法人、市民団体などと積極的に連携し、役割分担を明確にする中で事業実施を図る工夫が必要である。

## 【関連URL】

甲府商工会議所 <http://www.kofucci.or.jp/>

かすがも～る商店街 <http://homepage2.nifty.com/kasugamo-ru-kokiabr/>

学生チャレンジショップCAMPUS <http://www3.nns.ne.jp/ent/campus/>